

ゴビ砂漠南東部の恐竜化石産地バイシンツァフでは、今回の調査で希少なハドロサウルスの幼体が見つかった。緑がまばらな褐色の大地が地平線まで続く

褐色の大地



テクノロジー駆使

今夏から発掘現場に最新機器を投入。世界最大級の足跡化石を3Dスキャナーで詳細に記録した



大型の「竜脚類」出土

シャルツァフのボーンベッド(骨化石の密集層)では大型植物食恐竜「竜脚類」の胸から首が繋がって出土。炎天下での作業は慎重さとスピードが求められる



夜更けまで

今夏は岡山理科大の学生12人も発掘に参加。2人1組のテントで夜が更けるまで語り合い、砂漠での貴重な体験を日記に記した



国境を超えて

岡山理科大、モンゴルのメンバーと一緒に記念撮影。夜食を共にし、同じ夢を追った、かけがえのない仲間だ

ゴビ砂漠 恐竜の謎追う

岡山から空路およそ2700キロ、陸路800キロ超の長旅を経て、たどり着いたモンゴル・ゴビ砂漠南東部の恐竜化石産地シャルツァフ。この地を拠点に8月、岡山理科大とモンゴル科学アカデミー古生物学

地質学研究所(IGP)が行った共同調査は、連なった世界最大級の恐竜足跡化石など貴重な発見があった。

炎天下での発掘作業は過酷だが、化石が地表に顔を出した時の心躍る感覚は忘れられな

い。文明と隔絶した砂漠でのテント生活は何もかもが初体験だった。そして、「同じ釜の飯を食う」日蒙両国の隊員は固い絆で結ばれている。太古の謎に挑んだ調査隊の熱い夏を追った。(稲垣心也)



調査隊の四輪駆動車が夕日を背に大草原を走る。ウランバートルからゴビ砂漠のキャンプ地まで約18時間の長旅となった



岡山理科大モンゴルで共同調査

首都に上陸

ウランバートル郊外にある商業モールでは、大型肉食恐竜タルボサウルスなどIGPが所有する標本の一部を展示。モンゴルで恐竜人気は高まっている

